

教科	美術科	学年	第1学年	担当者	奥澤 愛
----	-----	----	------	-----	------

【教科目標】

- 1 楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。
- 2 対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技能を身につけ、意図に応じて創意工夫し表現する能力を育てる。
- 3 自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高めよさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。
- 4 主体的に考え、考えを作品にするために必要な情報を集める力をつける。集めた資料を工夫して活用したり学んだ技術を自分なりに活用する力をつける。

【使用教科書・教材等】

教科書：美術1(日本文教出版) 副読本：美術資料(秀学社) クロッキー帳 アクリルカラー

【学習計画】

学期	題材名	学習のねらい(身につけたい力)	準備物
1 学 期	美術を始めるのにあたって(ガイダンス) 帯時間で クロッキー	・美術でなにを学ぶのかを知る これからの学習内容に関心を持ち、学習の意義や内容、評価について理解する。 ・よく見て描くことの基礎基本と見えたものを形にしていくことのプロローグとする。	教科書 クロッキー帳
	・鑑賞「クロッキーモデル」	・鑑賞とは何かを知る。 ・絵画を観て感じたことを言葉で表現することができる。 ・他者の意見を聞いて自分の感じ方との違いなどを感じたり考えることができる。	ポスターカラー
2 学 期	「イメージを色と形で表現する」 ・鑑賞 「色彩の基本・仕組み」 「学びを支える技法」 「発想・構想の手立て」	・色の三原色、色の三属性、色の対比、色の感じについて知る。 ・造形的なイメージを持ち、表現するための様々な技法を知り活用する。 ・道具を正しく使いねデザインしたものを美しく仕上げることができる。 ・自分のイメージを表す形を考え、いくつもの構成のアイデアを出すことができる。 ・テーマにあった独自の構図や色彩の効果を考え、テーマにあった効果的な配色ができる。 ・自分が表現したいものを表現するために色を工夫して作り出すことができる。	鉛筆(シャープペンシルではなく、HB、Bなどのえんぴつ)
	「じっくり見ると見えてくる」 ・鑑賞「発想・構想の手立て」	・形や色彩、質感などに着目し、何かに見立てたりイメージをとらえたりして粘土、絵具を工夫して表すことができる。 ・身近なものの特徴やイメージをもとに構想を練り、作品に表現できる。 ・自然物や人工物などの色彩の特徴に着目し、美しさなどをとらえ、材料や用具の扱い方を工夫して見通しを持って表す。 ・身近な自然物などの特徴やイメージ、使う場面などをもとに、形や色彩の構成の工夫など鑑賞することができる。	※教材は配布しますが、廃材などを持参することもあります。
3 学 期	「広がる模様の世界」 鑑賞「広がる模様の世界」	・日本の伝統的な紋様について知り、意味を理解する。 ・写実から抽象へのデザインの思考を学ぶ。 ・言葉や意味を具体的なイメージにしデザインに美しく表現できる。	彫刻刀セット

※生徒の様子、学習状況や進度によって、題材の順番の変更や改変をすることもあります。

【評価の観点と評価の方法】(通知表のつけ方)

評価の観点	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
評価の観点の趣旨	学んだことを生かし、意図に応じて材料や用具を生かしたり、制作の順序などを考えたりし、表現方法を創意工夫して創造的に表現し美しく丁寧に制作できる。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、作品制作に主題を生み出し、豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方感じ方を深めたりできる。	美術の創造活動の学びを味わい、美術を愛好する心情をはぐくみ、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造しようとしている。 修正箇所を粘り強く修正し、思い描く作品に近づけようとしている。
評価の方法	・色の学習(基本・技法)レタリング、教科内着色検定などワークシート ・作品および取組状況 ・アイデアスケッチ	・色の学習(基本・技法・色の持つ感情) ・アイデアスケッチ ・作品および取組状況	・作品 ・取組状況観察、取組過程記録 ・振り返り

【授業の受け方・学習のポイント】(担当の先生からのアドバイス)

- 1 集中して授業に取り組みましょう。1時間1時間を大切に、授業時間を有効に使いましょう。作品の制作についての家庭での補習は原則として認められません。欠席などで遅れている場合には申し出ると補習は可能です。
- 2 題材ごとの目標を理解し、完成予想をイメージし、見通しを持って制作していくことが大切です。
- 3 考え、決定し、表現する過程の中で完成させる喜びを味わうために各段階で作品と向き合い、努力を惜しまないことです。
- 4 必要な情報を準備して授業に臨み、用具などを大切に扱い、管理もきちんとするよう習慣づけましょう。
- 5 できあがった作品は大切にしましょう。作品はその人自身であると思って仲間の作品も大切にしましょう。

【家庭学習の進め方・学習のポイント】(担当の先生からのアドバイス)

日常生活で、普段なにげなく見ているものの中に、形や色の美しさ・面白さを発見し感じるようになれば、美術への興味が一層深まります。又、自分から進んで美術の本や写真を見たり、時には美術館や展覧会などに足を運んでみるのも良いでしょう。たくさん本を読んでいろいろなことを想像できるやわらかい感性を育てましょう。世の中にあるものすべてが美術の授業には役に立ちます。新聞を読んだり、ニュースを見たりというのは考えたり表現したりするうえでの助けになります。好奇心をもっていろいろなことに挑戦することが大切です。